

第2回『会津の徳一菩薩』の発表会

aizumonosiri.Com

世話人：NPO法人会津の文化づくり

理事長 築田直幸

090-4555-7347

春の4月に第1回発表会を行い『会津の徳一菩薩』を掘り起こすことを始めました。仏都会津にここ数年関心が高まり、歴史の検証や伝説の継承をより明らかにしていくことが、地元に関われ出されている。この変化に応じることがさらに大切になってきた。この発表会は、意義深い11月9日に一般公開にて行いますので、関心のある方、また初めての方もどうぞ気軽にご参加ください。

【記】

○ 日時：平成20年11月9日（日）13：30～15：30

○ 場所：磐梯町・中央公民館

入場無料

発表者：白岩賢一郎／柴田聖寛／伊藤泰雄／築田直幸 など

意見交換：

以上。

● 徳一は、

8世紀末から9世紀初めに活躍し、会津の仏教文化の基礎を確立した、奈良興福寺の法相宗の高僧である。生没年（781年～842年）は諸説ある。会津から磐城・筑波の地域に多くの寺社を建立し、新たな奈良仏教文化の興隆を各地でおこなう。

徳一は清水観音や長谷観音の十一面観音をひろめ、さらには薬師による会津の薬師寺体制の基礎をつくり、この地を会津仏都に変革した。とくに会津では、慧日寺・勝常寺・仁王寺などを創建し、雀林の法用寺や柳津の圓蔵寺などを再建した。

南都法相宗を代表する学僧でもある徳一は、最澄や空海と三一権実の教義論争をたたかう。弟子金耀にあとを託し、各地を巡行し、筑波山に中禅寺を建て、観音信仰をひろめる。晩年、興福寺維摩会の講師に招かれ、徳一は牛にまたがって南都に赴いたと伝える。

後の恵日寺領18万石の開山者となった。
